

## 令和元年度学位記授与式式辞

令和2年3月20日（金・祝）

アイザック小杉文化ホール ラポール

本日、山崎副知事をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和元年度富山県立大学工学部・大学院工学研究科の学位記授与式を挙げることは、誠に喜びに堪えません。これも、ご来賓の皆様をはじめこれまで本学の教育・研究を支えてくださった多くの関係の皆様のご支援、ご尽力の賜であり、教職員を代表し、心から御礼を申し上げます。

そして、今日の佳き日を迎えられた工学部・大学院、計303名の卒業生・修了生の皆さん、今日の卒業、修了を心よりお慶びを申し上げます。

私がアメリカの大学で働いたとき、そこで、卒業式のことを commencement と呼んでいました。commencement とは「開始・始まり」を意味する英単語です。転じて、卒業するとは新たな活動の始まりだという理由で、卒業式のことを commencement と呼ぶのだと当時合点しました。今日は、皆さんが、大学を卒業する日です。就職して新たな社会活動が始める日であり、あるいは、大学院に進学して最先端の研究が始める日です。この始まりに際して、私から皆さんへの期待と励ましのことばを述べたいと思います。

皆さんは、卒業後、社会で活躍することが期待されています。皆さんの社会での活動を通して、家族や、地域や、国や、世界で、より質の高い生活が私たちにもたらされるはずで、少子高齢社会という社会課題にもかかわらず、より質の高い生活が将来送れるような社会変革に、皆さんが貢献すると私は信じています。

そのため、皆さんがどんな将来を創りたいのか、どんな夢をもっているのか、その夢を実現するために何をすべきか、皆さん自身が問われています。もちろん、個人の力のみで社会が変革するものではありません。企業の経済活動や、コミュニティとの協働、家族の協力などを通して変革できるものだと思いますが、私は、皆さんに、その変革のきっかけや推進に積極的に関わってほしいと思っています。

社会の変革とはどんなものでしょうか。報道でよく取り上げられる科学技術としては次のものがあります。労働力人口の割合が減少し世帯構成が変化する未来にあっても、人工知能 AI やロボットによって、労働生産性が確保され、生活の質も向上するというものです。これ以外にも、健康状態を把握できる装置を利用して健康状態を直ちに見える化し、日々の行動の変容を促し、結果、健康寿命が延伸するというシナリオも考えられています。さらには、いつでもだれでもどこでも、移動サービスが手軽に利用できるような、完全自動化された交通インフラの整備も話題になっています。社会制度や家族の支援に頼るだけではなく、このように科学技術によっても、生活の質が向上することが見込めます。皆さんには、富山県立大学で学習したり研究したりして身に着けた能力で、先に述べた例に限ることなく、科学技術を活用して、未来を創っていただきたいと思っています。ちなみに、卒業アルバムに載せた私の色紙にも、この願いを込めて「創つくる」という文字を書きました。

ところで、生活の中で母国語でない言語を話す機会があるとき、どうも話すのが苦手だなと感じる人が多いようです。それは語彙力やリスニング力の問題だけではなく、相手に伝えたいことがあるのかという問題のせいだと私は考えています。生活体験などが異なる、いわゆる異文化の相手に対して、自分自身が積極的に伝えたいことがなければ、どうしてもコミュニケーションに消極的になります。一方、どうしても伝えたいことがあれば、身振り手振りも含めて、なんとか伝えようとするのではないのでしょうか。今日から皆さんが始める仕事や研究でも同様です。時間をかけて皆さんが関わったことを、なんとしても相手に伝えたいはずです。私は、コミュニケーション力というのは、伝えたいことがあるかどうか依存すると思っています。先ほどお話した、未来を創るときに、ぜひ、勇気があるかもしれませんが、日本語、英語などで、国際的な多様性をもつ周りの人達にも皆さんの思いを伝えて、仲間を増やしてください。

仕事や研究をするからには、寝食を忘れるほどに没頭できるものを見つけ、個性や独創性を発揮してください。意味のある独創性でトップになってください。ここで、1位になるのは難しいと思った皆さん、それはひょっとして標準的な評価に慣れきった結果かもしれません。勉強する能力を試験で評価したり、運動能力を100mを走る時間で評価するなど、私たちは多数を評価して比べる標準的な方法に慣れています。これらは多くの場合、効率的な評価方法です。一方、意味のある独創性を評価する方法を私たちは持ち合わせていないようです。言い換えるなら、皆さんは授業で教わったこと、教科書にのって

ること、ニュースで報道されていることを、そのまま批判なく受け入れて、それをもとに考えたり発言したりしてきたのではないのでしょうか。しかしながら、これから皆さんが先頭に立って創る未来には、先人の経験や知識や評価方法が役立たないことも多々あるでしょう。そのときに、皆さんがリスクをとって独創的な課題解決を求められる場面です。いいかえれば、現状の延長上になり、独創性によって社会変革をもたらせる場面です。ぜひ、積極的に取り組んでください。富山県立大学で身に着けたことが、きっと役立つと信じています。

最後に、私がいままで学生に話してきた言葉の中で、学生が気に入ってくれているものを一つ紹介します。「研究では、強豪ぞろいの先頭集団より半周遅れて走るくらいがちょうどよい。」という言葉です。強豪が集まる先頭集団の中で研究の競争をして勝者になれるのは、うれしいし意義のあることですが、この競争は疲れるし、独創性も見えづらいし、そもそも先頭集団の中では勝者に事欠かない。先頭集団を常に追いかける二番手の集団は二番煎じと評価される。一方、研究の歴史は繰り返されるので、インパクトがあれば、半周遅れていても、後の評価が、半周も先の研究をした先見の明のある独創的な研究者となります。これは研究にとどまらず、仕事にもいえることでしょう。皆さんも、ぜひ、皆さんの持つ個性や独創性を発揮して社会課題に挑戦し、社会変革をもたらし、ご家族にも幸せを分配できるような、すばらしい未来を創ってください。

卒業、修了する皆さん、本日は本当におめでとうございます。

令和2年3月20日

富山県立大学学長 下山勲